

◇ 本年度の学校教育目標

ふるさとを愛し、人間性豊かに、自ら考え、未来にたくましく生きぬく子ども

◇ グランドデザイン

平成30年度

白根源小学校グランドデザイン



学校教育目標

ふるさとを愛し、人間性豊かに、自ら考え、未来にたくましく生きぬく子ども



みなもと小の児童

いつでも全力（知） み 自ら学ぶ かしい子
いつでも笑顔（徳） な 何でもやる気で がんばる子
いつでも元気（体） も 燃え立つ心 げんきな子
と 友だちみんなに やさしい子

みなもと小の職員

◎意欲に溢れ、教育課題に
前向きに挑戦する職員
○子どもの気持ちになって考える教職員
○互いに学び合う教職員
○組織（チーム源）で取り組む教職員
○保護者や地域住民に信頼される教職員

学校経営の基本方針

- (1) 学ぶ力を育てる学校づくり
- (2) のびのびと生活できる学校づくり
- (3) 組織で子どもを育てる学校づくり
- (4) 保護者、地域に開く学校づくり

本年度の努力点 ～ つながる ～

1 「主体的・対話的で深い学び」を大切にしたい授業の充実

学びにおける友達とのつながりを大切に。 校内外の充実 オープン授業を活用した職員間の学び合い、読書活動の充実

2 学校と家庭とが連携した活動の充実

「チーム源」の意識を持ち学校・家庭・地域のつながりを大切に。

家庭との連携、情報共有、保護者支援「源小家庭学習サポーター」の取組み

3 白根源小の良き伝統のさらなる充実

源小の宝を「明日へつなぐもの」として大切に。

たてわ活動、無言潮、あいさつ、集会での集まり方、歌謡会、合唱、集まりのしかた 等

確かな学力

* 基礎基本の定着

（学習状況の把握、朝学習・全校一斉テストの取組、言語活動の充実、学習指導の確立）

* 「主体的・対話的で深い学び」を大切にしたい授業づくり

（外国語活動の充実、校外学習の充実、やまなしスタンダードの共通理解、オープン授業、ICT機器の活用）

* 個に応じた学習指導の充実

（一人ひとりの良さを発見できる授業、算数のT・T授業）

* 学び続ける意欲の形成

（家庭学習の充実、学習習慣の形成、学びの甲斐感、かきあめ）

豊かな心

* 基本的な生活習慣の確立

（あいさつ運動、源のきまり研行、無言潮）

* 人や物との関わり方の重視

（体験学習の充実、縦割り活動、校外学習、地域学習）

* 道徳教育の充実

（道徳授業の充実、外部講師の活用、小笠原流作法）

* 魅力ある読書指導

（読み聞かせ、親子読書、読書の日常化）

* 児童理解の推進

（居場所づくりを中心としたいじめの未然防止、Q-U検査、児童の情報交換、アンケート調査）

健やかな体

* 児童会・学級活動の充実

（自治活動・縦割り活動の推進）

* 運動の日常化

（体力テストの結果に基づく授業改善、一校一実活動の推進）

* 生活習慣の確立

（食育の推進一校一実践、早寝・早起き・朝ごはん・スクリーン（ちの奨励））

* 健康・安全活動の推進

（保健指導と調査の充実、体験活動の指導の推進）

特色ある学校づくり

* 交流教育の充実

（わかば交流学校との交流教育・連携、御蔵中学校との小中連携の取組、白根保育所との交流、地域交流活動の推進）

* 家庭や地域との連携・協働

（基本的な生活習慣づくりや家庭学習の充実における家庭との連携、学習ボランティアの活用、積極的情報発信、学校開放日の設定、学校関係の充実、地域の育成会活動への積極的参加）

* 安全・安心な教育活動

（美濃市防犯・防災の訓練の実施、学校危機管理マニュアルの見直し、体験活動と安全指導、保護者・地域との連携）

* 課題のある児童への対応

（課題のある児童への対応、特別支援教育の充実）

家庭・地域から信頼される学校

「地域に開かれた学校づくり 保護者・地域との連携」

143年の伝統

「地域に根ざした学校づくり」

I 南アルプス市立白根源小学校「学校評価」計画

① 学校評価 法的根拠

平成30年度 南アルプス市立白根源小学校

学校評価

目的

学校教育法

第42条

小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第43条

小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

学校教育法施行規則

第66条

小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第67条

小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第68条

小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

② 方向性

以上の法規に基づいて、学校評価は行われます。学校の自己点検、自己評価結果及びその改善策をなどについて整理して、教育活動を充実させ、学校運営を効果的に進めていくことが大事なポイントになります。学校長がふだんから述べているとおり、客観的なデータと事実に基づき、改善(keep & change)していくことが必要となります。

③ 年間計画

1学期

今年度は1学期に保護者アンケートは実施しません。(2学期のみです。)

1	5月2日	自己評価及び児童・保護者アンケート実施についての提案(朝礼)
2	5月7日	自己評価の準備完了→共有フォルダにアップ(打込めます) 児童アンケート準備完了→各クラスに配付(6月25日)
3	6月28日	委嘱式(学校評議員・学校関係者評価委員)
4	7月17日	自己評価 及び 児童アンケート 打込み完了
5	7月20日	学校関係者評価委員会開催通知発送
6	7月31日	学校関係者評価委員会説明資料完成→校長提出(確認・修正)
7	8月21日	学校関係者評価委員会説明資料職員説明→職員会議
8	8月31日	学校関係者評価委員会実施(19:00)
9	9月7日	学校関係者評価書 職員報告(終礼)
10	9月10日	学校関係者評価委員へ配付 市教委提出

一部内容項目を変更し、15項目に絞りました。
一部項目内容を変更しました。

厳守

2学期

1	11月12日	学校評価実施についての提案→職員会議
2	11月13日	自己評価の準備完了→共有フォルダにアップ(打込めます) 児童アンケート準備完了→各クラスに配付(11月19日)
3	11月19日	保護者アンケート配布(回収期間 11/21-11/26→教頭提出)

厳守 一部項目内容を変更しました。

* 保護者アンケートは、紙面を配付し、担任が回収して、教頭へ提出してください。

4	12月10日	自己評価 及び 児童アンケート 打込み完了
5	12月21日	学校関係者評価委員会説明資料完成→校長提出(確認・修正)

厳守

3学期

6	1月9日	学校関係者評価委員会説明資料職員説明→職員会議
7	1月17日	学校関係者評価委員会実施(12:20)
8	1月25日	学校関係者評価書職員報告(終礼)
9	1月28日	学校関係者評価委員へ配付 市教委提出
10	2月中旬	南アルプス市立白根源小学校H31グランドデザイン完成
11	2月下旬	H31グランドデザイン職員報告 H31グランドデザイン市教委提出及び報告 H31グランドデザインホームページ掲載

II 全体評価

① 前期自己評価 全体評価

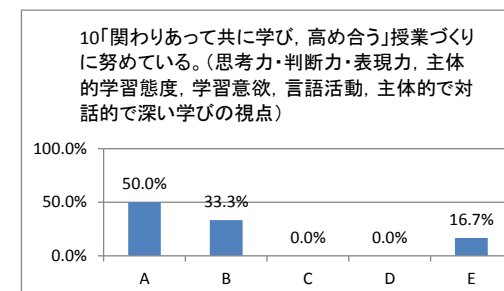
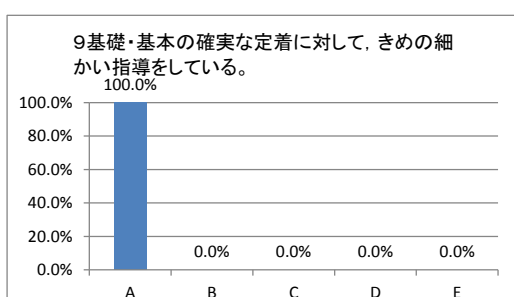
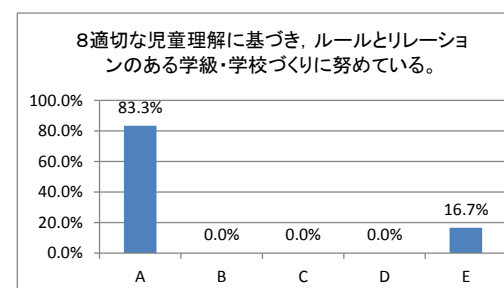
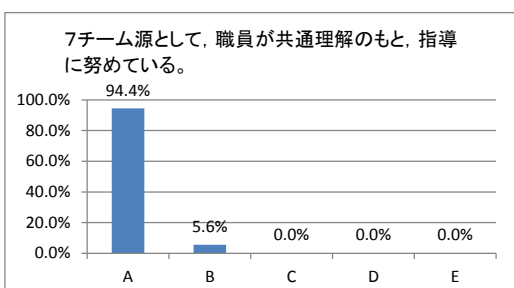
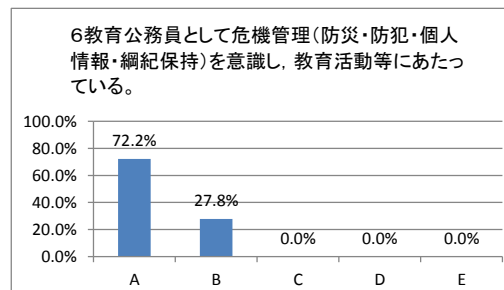
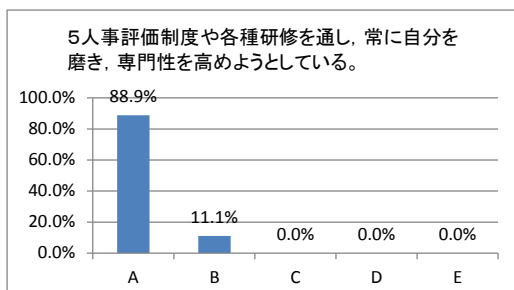
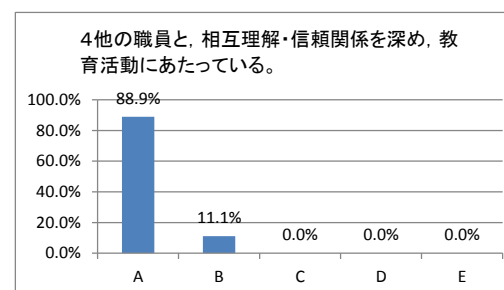
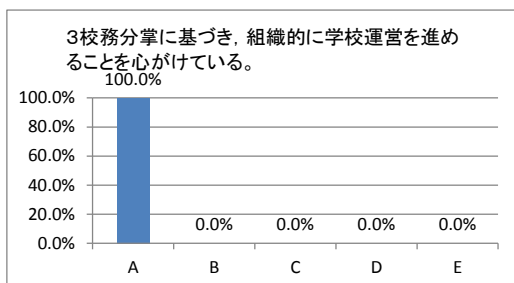
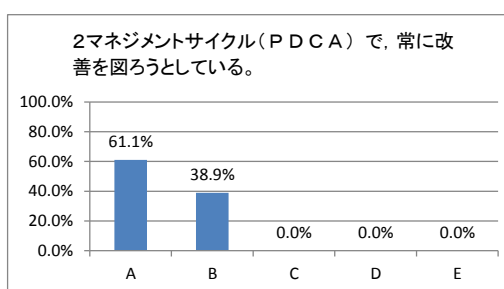
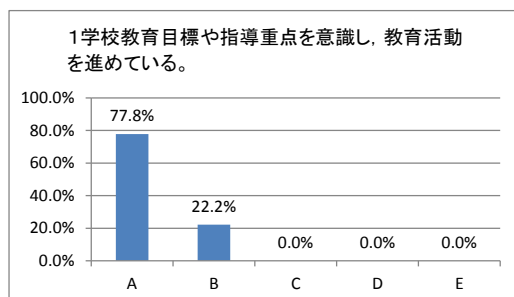
・全体分析	今年度も昨年度同様、評価項目を見直し、同様な内容を削除または構成し直し、昨年度までの37項目から15項目とした。再度改善を施し、PC上から打込み、自動的に数値化及びグラフ化できるようにしたことで職員も短時間で評価できるように改善を施した。評価する側も、評価を分析する側も短時間で能率的に取り組めるように考え、取り組んだ。昨年度同様、自己評価や職員会議等での職員の意見を参考にして、PDCAを確実に実践に結び付けられるシステムを今後も検討していきたい。 評価は、 Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない とし職種によってあてはまらない場合もあるので Eあてはまらないを設けてある。 集計結果からは、全ての項目に対して、肯定的な意見が大半を占めた。学校長が描いているグラウンドデザインが職員に浸透していることを意味しているのではないだろうか。2学期以降もグラウンドデザインを意識して学校教育目標に近づけるように取り組んでいきたい。 職員の取組姿勢は様々な場面において協力的であり、それが全校児童に伝わり、5分前行動、無言清掃等の姿に表れている。縦割りにおける活動も全学年がお互いに顔と名前を知って仲よく活動している。組織が、目標に向けて、協力的に取り組まれている様子がよくわかる。職員も児童も力を合わせて、目標に向けて取り組んでいることは素晴らしいの一言に尽きる。
経営 学校 方針 教育 計画 ・ 目標 ・ 学校 運営	1-7 全て肯定的な意見で占められている。特にNo.3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」については、全職員がA評価であった。しっかり意識をもって1学期は取り組んでいたといえる。 B評価は、No.2「マネジメントサイクル（PDCA）で、常に改善を図ろうとしている。」No.6「教育公務員として危機管理（防災・防犯・個人情報・綱紀保持）を意識し、教育活動等に当たっている。」について目立っている。学校全体としては、改善を図ったり、最新情報を提供したりして共通確認を進めているが、職員自身が取り組み策を考え、実践に結びつけるという面において、十分に取組を果たしているという自信が持てないのではないかと推測される。 全職員がチーム源で協力的に取り組んでいる姿は、No.7「チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。」No.4「他の職員と、相互理解・信頼関係を深め、教育活動に当たっている。」の評価に如実に表れている。うれしいことである。
学習 指導	8-11 全て肯定的な意見で占められている。 しかし、No.11「家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。」において、B評価が12となっている。（約70%がB評価となっている。）昨年度より自主学習に取り組む児童は増えてきている。しかし、家庭での理解や取り組みについては、教師が家庭との連携という面でまだ課題があるからだと考えられる。 全体的には、一人ひとりわかる授業実現に対して目標を持って努力していることがわかる結果が出ている。実際に自己観察書における目標に向けて取り組んでいる様子が見られている。また、個別指導やTTも丁寧に行われおり、日常きめ細かな指導が実践されている。No.8「適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。」No.9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」で全職員がA評価であることから明らかである。
児童 理解 ・ 生徒 指導	12-14 全て肯定的な意見で占められている。 しかし、No.13「生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。」でB評価が50%を占めている。昨年度より個別のケース会議を増やし、他機関の連携も増やしているが、実際に児童の変化が取組後すぐに見られるわけではないので、不安や悩みが生じているのではないだろうか。特別支援教育や生徒指導については、観察-分析-取組の繰り返しが必要であり、中には連携機関とのつながりで分析-取組を進めなくてはならないので、すぐに「この方法があてはまる」という処方箋的な方法はないので、今後もケース会議の中で検討し取組を考えていきたい。 白根源小学校の良い部分として、全校児童の力で基本的生活習慣性を身に付けていくことが挙げられる。無言清掃、縦割り活動を通して高学年から低学年へいい形が繋がっている。規範意識を持った風土が形成され、いじめ、不登校の未然防止につながっているといえる。
保護 者 ・ 地域 連携	15 全て肯定的な意見で占められている。 No.15「保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。」にB評価が約40%占めている。昨年度もそうであったが、保護者や地域がかなり様々な場面で協力的であるにもかかわらず、B評価が多いということは、意識して保護者や地域にアプローチしていないことを意味しているのだらうと思われる。特別に仕組んでいるわけではないために職員一人ひとりの意識が強くないのかもしれない。しかし、職員個人で全て連携しているわけではなく、学校全体としてそれぞれが役割も持って連携していることをわかってほしい。 今年は、農業体験や環境整備、防災等で新たな連携を仕組み、拡大しているだけに、ボランティアも含めた活動を見直し、積極的な活動に結び付けていきたい。どんなつながりを持てるのかも職員に説明し、チーム学校の意識を高めさせていきたい。

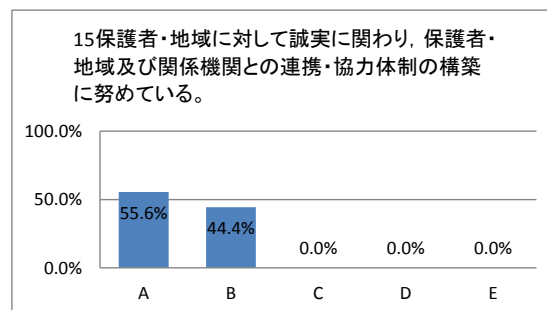
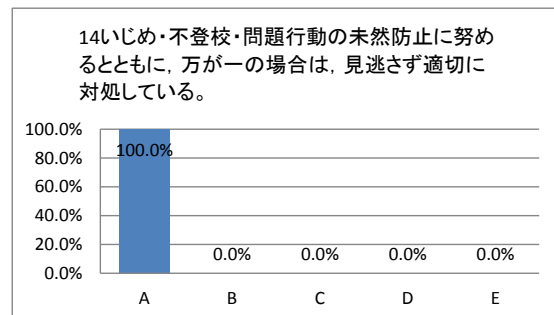
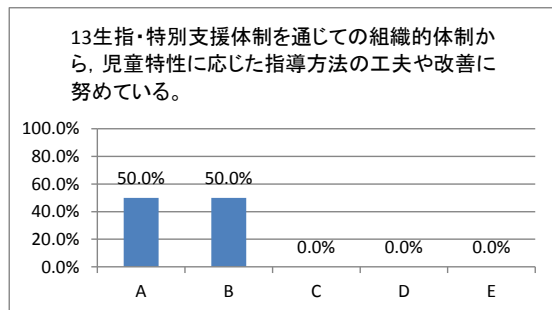
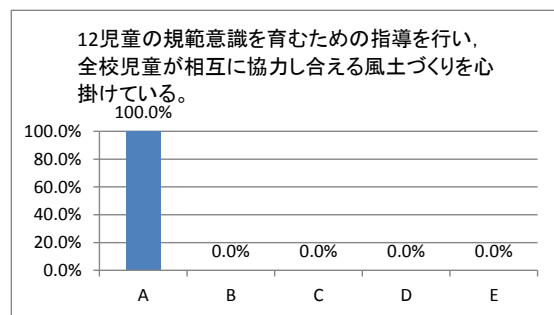
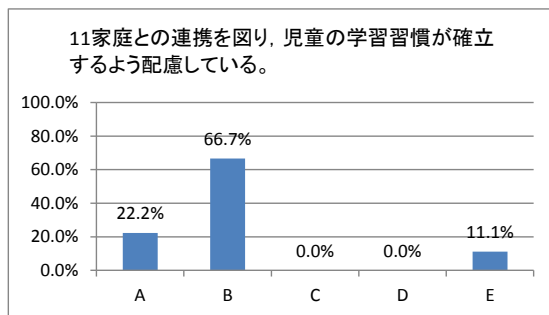
② 自己評価集計結果

NO.	評価項目	集計				
1	1学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。	A	B	C	D	E
		77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		14	4	0	0	0
2	2マネジメントサイクル(PDCA)で、常に改善を図ろうとしている。	A	B	C	D	E
		61.1%	38.9%	0.0%	0.0%	0.0%
		11	7	0	0	0
3	3校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。	A	B	C	D	E
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		18	0	0	0	0
4	4他の職員と、相互理解・信頼関係を深め、教育活動にあたっている。	A	B	C	D	E
		88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		16	2	0	0	0
5	5人事評価制度や各種研修を通し、常に自分を磨き、専門性を高めようとしている。	A	B	C	D	E
		88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		16	2	0	0	0
6	6教育公務員として危機管理(防災・防犯・個人情報・網紀保持)を意識し、教育活動等にあたっている。	A	B	C	D	E
		72.2%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%
		13	5	0	0	0
7	7チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。	A	B	C	D	E
		94.4%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		17	1	0	0	0
8	8適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。	A	B	C	D	E
		83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
		15	0	0	0	3
9	9基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。	A	B	C	D	E
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		18	0	0	0	0
10	10「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくりに努めている。(思考力・判断力・表現力、主体的学習態度、学習意欲、言語活動、主体的で対話的で深い学びの視点)	A	B	C	D	E
		50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%
		9	6	0	0	3
11	11家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。	A	B	C	D	E
		22.2%	66.7%	0.0%	0.0%	11.1%
		4	12	0	0	2
12	12児童の規範意識を育むための指導を行い、全校児童が相互に協力し合える風土づくりを心掛けている。	A	B	C	D	E
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		18	0	0	0	0
13	13生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。	A	B	C	D	E
		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		9	9	0	0	0
14	14いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合は、見逃さず適切に対処している。	A	B	C	D	E
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		18	0	0	0	0
15	15保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。	A	B	C	D	E
		55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%
		10	8	0	0	0

項目	番号	評価項目	1
経営方針・学校目標	1	学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。	
	2	マネジメントサイクル(PDCA)で、常に改善を図ろうとしている。	各行事ごとに反省を行い、その成果を次年度に活かしていくことが大切。
	3	校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。	
	4	他の職員と、相互理解・信頼関係を深め、教育活動にあたっている。	
	5	人事評価制度や各種研修を通し、常に自分を磨き、専門性を高めようとしている。	
	6	教育公務員として危機管理(防災・防犯・個人情報・網紀保持)を意識し、教育活動等にあたっている。	危機管理マニュアルをもとに最悪の場合を想定して対応をしている。
	7	チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。	
学習指導	8	適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。	
	9	基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。	
	10	「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくりに努めている。(思考力・判断力・表現力、主体的学習態度、学習意欲、言語活動、主体的で対話的で深い学びの視点)	校内研究に教職員がアクティブに取り組むことが大切
	11	家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。	源小家庭学習チャレンジ週間を各学期に設定して取り組んでいることはよい。カードから考えられることを改善点として取り組むとよい。
生徒指導	12	児童の規範意識を育むための指導を行い、全校児童が相互に協力し合える風土づくりを心掛けている。	
	13	生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。	
	14	いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合は、見逃さず適切に対処している。	先生方との情報交換の時間をたいせつにしている。
と保護者連携地域	15	保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。	教頭先生が中心になって通学路の安全などにおいて地域の関係機関と密接な連絡を取り良い関係が構築できている。この関係を維持していくことが大切。

③ 自己評価集計結果(グラフ化)





Ⅲ 児童アンケート結果

① 前期児童アンケート全体評価

18項目中ほとんどが肯定的な意見であった。(A評価+B評価)職員の自己評価分析同様、授業や生活場面で頑張っている様子が伺える。また、家庭での生活も安定しているといえる。「学校が楽しいか」「授業が分かるか」についても90%以上の肯定的な意見が児童にも意識されている。教師も指導については意識して工夫して授業しているだけに、子どもたちにわかる授業が浸透していると考えられる。こうした居場所と出番のある学校生活が子どもたちに意識されていることは本当にうれしい結果であるといえる。

C評価+D評価が10%以上を課題として挙げてみると、No.1「学校が楽しいですか。」9.7% No.3「授業中に質問や意見を いいますか。」27.4% No.7「学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことがありますか。」17.7% No.8「こまったときに 話のできる友だちが いますか。」14.2% No.14「地域の人と 出会ったら あいさつを していますか。」9.7% No.16「家の人と 学校でのことを 話していますか。」13.3% No.17「家の人と さいがい(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。」28.3%の項目で見られる。昨年度と比較すると(児童も違うので一概には言えないが) No.7「学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことがありますか。」 No.16「家の人と 学校でのことを 話していますか。」 No.17「家の人と さいがい(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。」で改善が見られる。特に防災については、危機管理室との連携で改善が見られ始めている。(45.5%→28.3%)逆に、%ダウンした項目については、2学期の取組やQ-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)分析と合わせて改善を試みていきたいと考えている。No.1「学校が楽しいですか。」に対しては、Q-U分析や学級力アンケート結果分析から、必要に応じて個別対応していきたい。No.3「授業中に 質問や 意見を いいますか。」については、地域の人へのあいさつや学校生活における機会における対人関係を重視していくことで人前での発言に自信を持たせていくことも大切であり、こうした場面での工夫した指導をそれぞれ考え取り組んでほしい。

② 児童アンケート集計結果

参考:平成29年度 2学期

市の指定:学校生活に関する質

1	学校が 楽しいですか。	A	B	C	D
		64.6%	25.7%	7.1%	2.7%
2	2学期の 授業が わかりますか。	A	B	C	D
		58.4%	38.9%	0.9%	1.8%
3	3授業中に 質問や 意見を いいますか。	A	B	C	D
		37.2%	35.4%	15.0%	12.4%
4	4学校の 決まりや 約束が 守れていますか。	A	B	C	D
		59.3%	34.5%	3.5%	2.7%
5	5家で 家庭学習(自主学習・宿題)を していますか。	A	B	C	D
		75.2%	17.7%	6.2%	0.9%
6	6クラスに なかよく遊ぶ 友だちが いますか。	A	B	C	D
		75.2%	19.5%	3.5%	1.8%
7	7学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことがありますか。	A	B	C	D
		54.9%	27.4%	10.6%	7.1%
8	8こまったときに 話のできる友だちが いますか。	A	B	C	D
		61.9%	23.9%	8.8%	5.3%
9	9先生はこまったときに 話を聞いてくれたり、きちんと対応してくれますか。	A	B	C	D
		68.1%	23.9%	7.1%	0.9%
10	10先生はやってよいこと・悪いことをしっかり教えてくれますか。	A	B	C	D
		81.4%	14.2%	3.5%	0.9%

1	1学校が 楽しいですか。	A	B	C	D
		73.6%	23.6%	1.8%	0.9%
2	2クラスに なかよく遊ぶ 友だちが いますか。	A	B	C	D
		82.7%	12.7%	2.7%	1.8%
3	3こまったときに 話のできる友だちが いますか。	A	B	C	D
		67.3%	23.6%	9.1%	0.0%
4	4学校の 授業が 楽しいですか。	A	B	C	D
		64.5%	30.9%	3.6%	0.9%
5	5学校の 授業が わかりますか。	A	B	C	D
		61.8%	35.5%	2.7%	0.0%
6	6こまったときに 話ができる 先生が いますか。	A	B	C	D
		64.5%	29.1%	6.4%	0.0%
7	7授業中に 質問や 意見を いいますか。	A	B	C	D
		44.5%	33.6%	15.5%	6.4%
8	8宿題を わすれずに していますか。	A	B	C	D
		64.5%	27.3%	6.4%	1.8%
9	9家で 自主勉強を していますか。	A	B	C	D
		62.7%	21.8%	6.4%	9.1%
10	10家の人と 学校でのことを 話していますか。	A	B	C	D
		57.3%	28.2%	10.0%	4.5%

11	11先生はがんばったことをみとめてくれますか。	A 68.1%	B 24.8%	C 5.3%	D 1.8%
12	12そうじ や 自分の仕事にしっかり取り組んでいますか。	A 76.1%	B 21.2%	C 2.7%	D 0.0%
13	13家の人と あいさつをしていますか。	A 81.4%	B 12.4%	C 3.5%	D 2.7%
14	14地域のひと 出会ったら あいさつ をしていますか。	A 72.6%	B 17.7%	C 7.1%	D 2.7%
15	15朝ごはんを 食べて 学校に きますか。	A 94.7%	B 4.4%	C 0.9%	D 0.0%
16	16家のひと 学校でのことを 話していますか。	A 54.0%	B 32.7%	C 9.7%	D 3.5%
17	17家のひと さいがい(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。	A 41.6%	B 30.1%	C 15.9%	D 12.4%
18	18わかばのお友だちと 仲良く遊ぶことができましたか。	A 82.1%	B 14.3%	C 3.6%	D 0.0%

11	11家のひと あいさつをしていますか。	A 78.2%	B 13.6%	C 5.5%	D 2.7%
12	12地域のひと 出会ったら あいさつ をしていますか。	A 74.5%	B 19.1%	C 5.5%	D 0.9%
13	13家のひと さいがい(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。	A 33.6%	B 27.3%	C 25.5%	D 13.6%
14	14朝ごはんを 食べて 学校に きますか。	A 94.5%	B 4.5%	C 0.9%	D 0.0%
15	15学校の 決まりや 約束が 守れていますか。	A 58.2%	B 37.3%	C 4.5%	D 0.0%
16	16もしあなたが 悪いこと(まちがったこと)をしたら、先生から 注意されると 思いますか。	A 83.6%	B 10.9%	C 3.6%	D 1.8%
17	17学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことがありますか。	A 61.8%	B 19.1%	C 15.5%	D 3.6%
18	18わかばのお友だちと 仲良く遊ぶことができましたか。	A 81.8%	B 15.5%	C 1.8%	D 0.9%

19	(あてはまるほうに○印をつけてください。) 19自分のケータイまたはスマホを持っていますか	全人数	持っている	いない
		112	35	77

市の指定
ケータイ・スマ
ホに関する質問

*	(持っている人だけ、あてはまるほうに○印をつけてください) ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。	全人数	ある	ない	未記入
		34	24	8	1

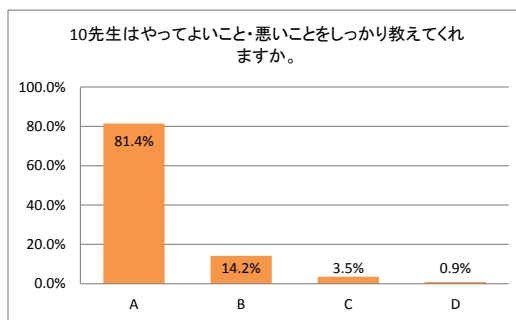
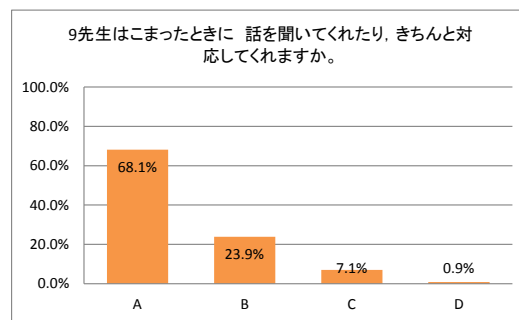
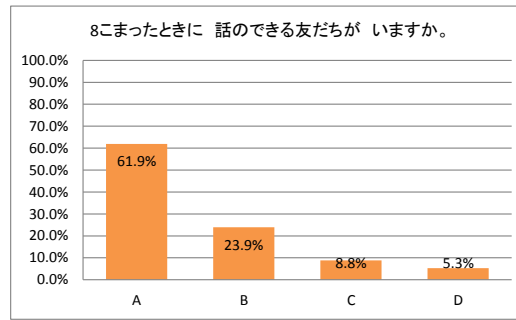
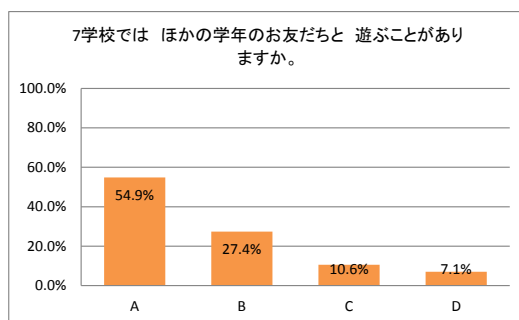
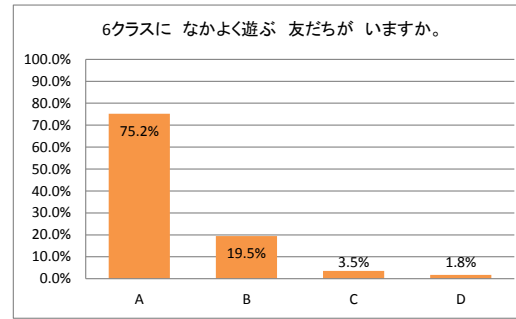
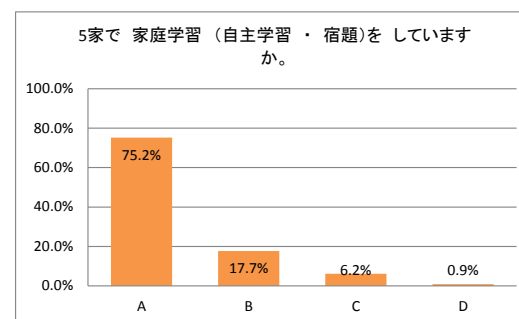
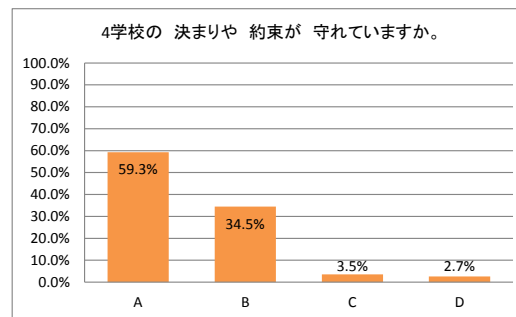
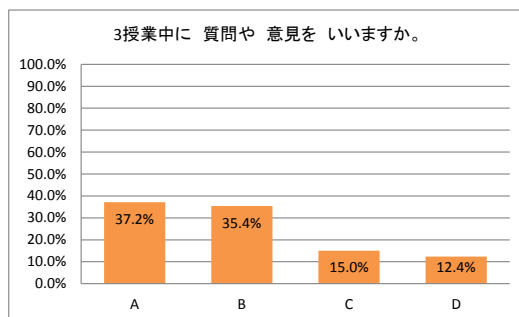
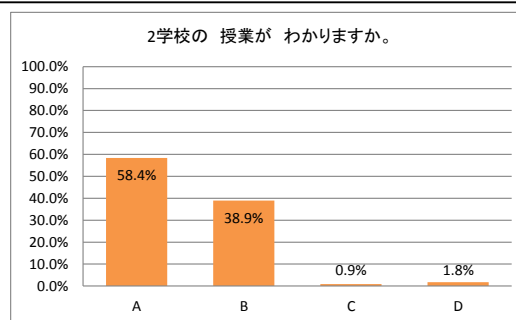
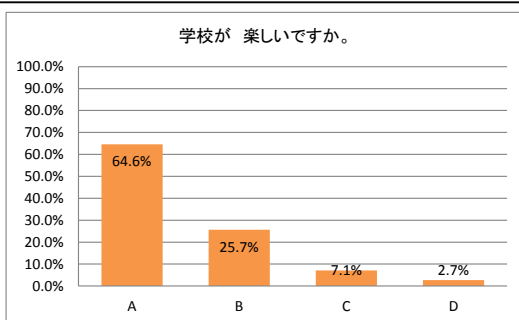
19	(あてはまるほうに○印をつけてください。) 19自分のケータイまたはスマホを持っていますか	持っている	いない	グラフ
		31.3%	68.8%	

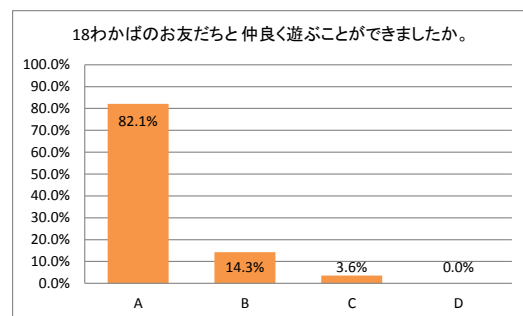
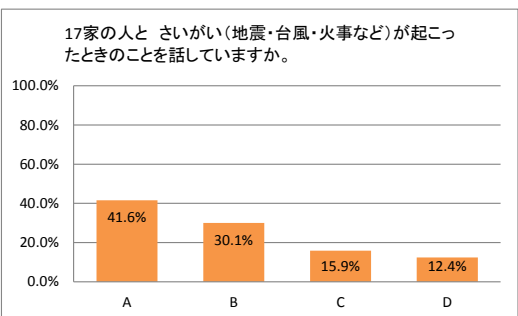
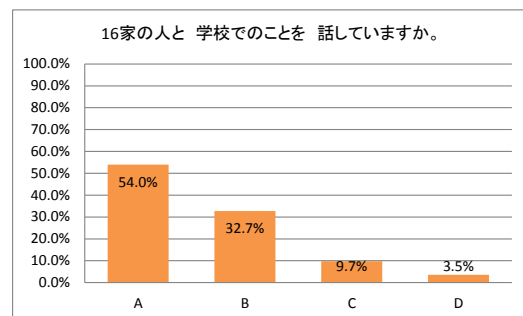
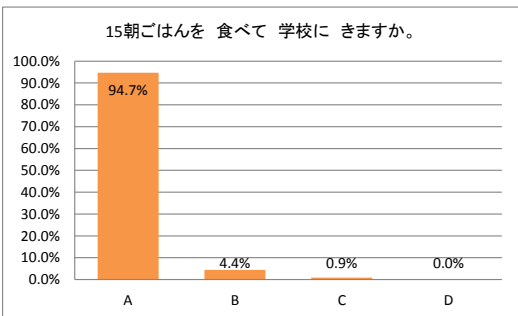
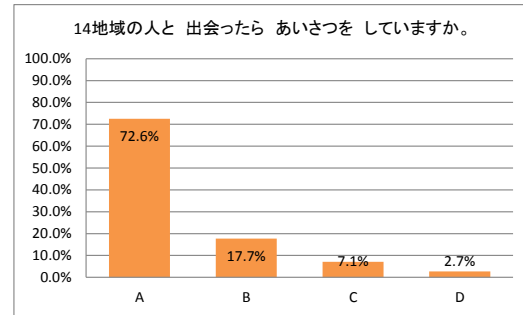
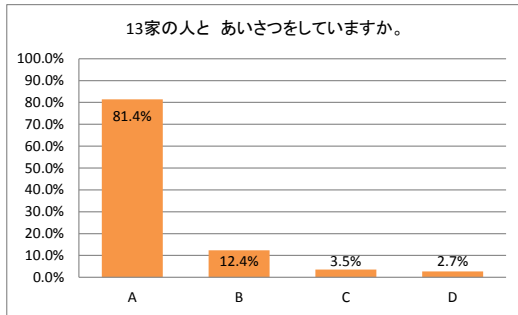
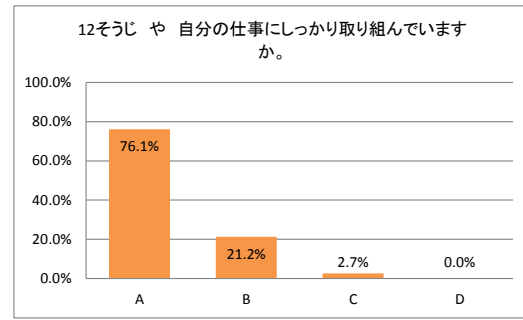
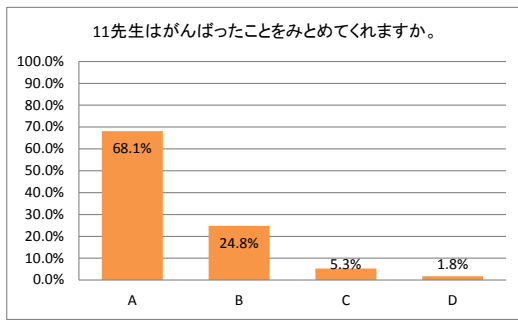
*	(持っている人だけ、あてはまるほうに○印をつけてください) ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。	ある	ない	グラフ
		70.6%	23.5%	

19	(あてはまるほうに○印をつけてください。) 19自分のケータイまたはスマホを持っていますか	全人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		35	11	3	3	5	10	3

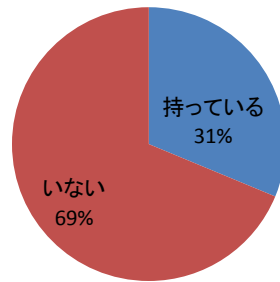
*	(持っている人だけ、あてはまるほうに○印をつけてください) ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。	ある	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		24	8	2	3	5	5	1

③ 児童アンケート集計結果(グラフ化)

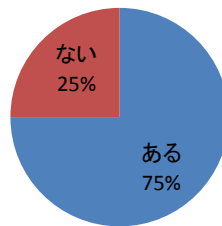




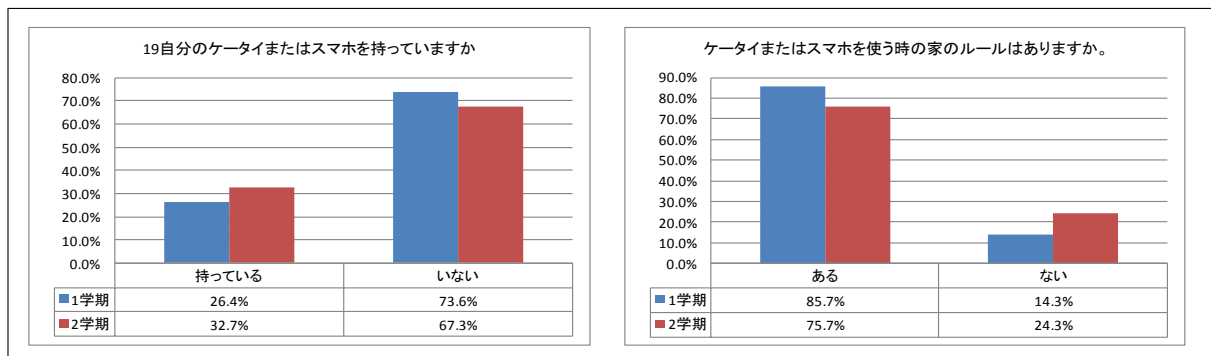
(あてはまるほうに○印をつけてください。)
19自分のケータイまたはスマホを持っていますか



(持っている人だけ、あてはまるほうに○印をつけてください)
ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。



平成29年度 2学期 児童スマホ・ケータイ所持状況



年 度	平成29年度		平成30年度
学 期	1学期	2学期	1学期
所 持	26%	32.20%	31%
ルール	85.70%	75.50%	75%

→

あまり変化は見られない。

ケータイ・スマホの所持率は4分の一であり、ルールはきちんとなされている状況である。社会の流れもあり、所持率は今後も増えていくことが予想される。使用によるリスクをなくすためにも、今後は利用による指導にも力を入れていかなければならないだろう。